

國學院大學

Kokugakuin University

リアルな体験とコミュニケーションが引き出す、高いモチベーション

就活のモチベーションが上がる
心躍る仕掛けとは

「優良企業と学生との接点を数多く用意し、やる気になった学生には最高のパフォーマンスが発揮できる場を惜しみなく提供していく。それが、本学のキャリアサポートです」。

國學院大學学生事務部長・藤形正俊氏はそう意気込みを見せる。リクルート出身の藤形氏は同社事業部長等を歴任したのち、大学に転身。主にキャリアサポートの分野でモチベーション・マネジメントの専門的な知見を活かした活動を行っている。

藤形氏が就職支援の現場で学生たちと向き合う中で、見えてきたものがあるという。それはバブル崩壊後に生まれた彼らが「働くこと」に対して抱くネガティブなイメージだ。

藤形氏は次のように説く。「働く現場に行けば、とてつもないバイタリティや使命感を持って仕事に取り組みモチベーションの塊のような職業人がいます。しかし、体感する機会がない学生には、そんな人が現実にいることすら想像できません。この後ろ向きの姿勢を変えるためのリアルな情報や体験にふれる場が、キャリアサポートには欠かせないのです」

視野を広げ、気付きを得る
『業界セミナー』の熱気

國學院大學のキャリアサポートでは「リアル」をキーワードに、就職活動に向かう学生のマインドをポジティブに変えるための仕掛けを数多く用意している。その好例が、3年生の就活が本格始動する秋に開催

する『業界セミナー』だ。各業界のトップ企業を学内に招き、2カ月間ほぼ毎日開催する。2019年度は約100社が登壇し、延べ4600人の学生が参加。会場は連日、学生たちの熱気に包まれた。例えばBtoB業界には事業規模が大きく、世界的な優良企業が数多くあるものの、就活を始めたばかりの学生には馴染みが薄い。そこで同セミナーでは、BtoBの現場を熟知する企業担当者、臨場感に溢れるビジネスの最前線やその醍醐味を語り尽くしてもらった。学生にとっては、ここで日本企業の面白さや奥深さを知り、多様な業界の最新動向、仕組みにふれることが、それまで気付かなかった企業に出合うチャンスとなるのだ。



(左上)キャリアサポート課には、毎年秋になると「内定者アドバイザー」が日替わりで常駐。人気の高いエアラインやIT・情報、金融業界などから内定を得た4年生約30名が、3年生にアドバイス等を行っている。(右上)國學院大學の学生向けに開催される『業界セミナー』。幅広い業界の企業約100社の担当者が日替わりで登壇する。同セミナーをきっかけに視野や興味が広がり、新たな業界・企業に目を向ける学生も多い。(左下)渋谷・表参道・恵比寿の3駅からのアクセスが可能な「渋谷キャンパス」は、就職活動の際もアドバンテージとなる魅力的な立地だ。

保護者や学生が大学に寄せる「就職への期待」がより高まりをみせる今、独自のキャリアサポート体制で存在感を増しているのが國學院大學である。その戦略と狙いについて、同学学生事務部長の藤形正俊氏に話を伺った。

取材・文／酒井摂

「働くこと」の楽しさをリアルに見せれば、学生は変わる



國學院大學
学生事務部長
藤形 正俊 氏

就活と聞くと、多くの学生は最初からネガティブに捉えがちです。しかし考え方を少し変えれば、就活は「義務」ではなく「権利」。だからこそ、やらされてやるのではなく、存分にこの権利を使ってもらいたいのです。國學院大學では、就職を学生がより成長するための重要な機会として位置付けています。そしてキャリアサポートも、就活に向かう姿勢をまずポジティブに変えるところから始まります。本学がめざす人物像に「主体的大人」の育成があります。それは自ら考え、行動し、チャンスを切り拓くことのできる人のこと。この主体的大人としての力が試される場が、まさに就活なのです。2018年度には、「国家公務員総合職」「公認会計士」という2つの難関試験突破をめざして、入学直後からスタートダッシュを切るキャリアプログラム「K-PLAS(ケー・プラス)」が始動しました。各ステップで明確な目標設定をすることで、1年次から4年次まで学生たちのモチベーションを維持しながら高め、選考を通過した学生には奨学金制度もあるキャリアプログラムです。2019年度に第2期生を迎え、現在も幅広い学部、学生たちが受講しています。リアルな体感の場や、マインドにスイッチが入る機会を私たち職員が数多くアレンジすることで、学生が挑戦せずにはいられないムードを学内全体に浸透させていく。それが、國學院大學のキャリアサポートなのです。

Information

國學院大學



1882(明治15)年創立。大学令により1920(大正9)年に大学に昇格し、私立大学として日本で最初に認可された8大学のうちの1つ。文学部・神道文化学部・法学部・経済学部の4学部を渋谷キャンパスに擁している。人間開発学部を設置している横浜たまプラーザキャンパスでは、新たに観光学部(仮称)の開設を2021年に予定している※。

※2021年4月設置予定、構想中

●DATA

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

TEL 03-5466-0141 (入学課)

URL <https://www.kokugakuin.ac.jp/admission>

内定者のコメント(2020年3月卒業予定者)

民間企業



KDDI内定※

小高 尚子さん

文学部 外国語文化学科 4年
(横浜市立みなと総合高等学校卒業)

就活中の私にとって、職員やスタッフの方がいつでも親身に対応してくれるキャリアサポート課は、壁にぶつかった時に最も頼りになる存在でした。今は内定者アドバイザーとして、全力で後輩たちの就活を支援しています。

民間企業



三菱UFJ信託銀行内定※

亀田 峻平さん

法学部 法律学科 4年
(私立成立学園高等学校卒業)

私はキャリアサポート課の「模擬面接指導会」を活用しました。模擬面接では、大手金融企業の人事担当者の方が本番よりも厳しく指導してくださったおかげで自身の改善点に気づき、面接の質を上げることができました。

※内定はいずれも2020年2月現在

ポート課の活躍であろう。同課では総勢10名の職員が自ら「一社一社訪問して調べた情報を基に、独自基準で絞った優良企業240社を紹介するデータブックを毎年発行している。前出の『業界セミナー』の招待企業も、職員自身が訪問から始めて業界企業研究を重ねたからこそ学生に自信を持つてすすめる企業にほかならない。キャリアサポート課・佐野祐人氏は「職員が企業を訪問し、担当者と直接話した実績を伝えるだけでなくでも学生ののめり込み方が違う」と明かす。「企業の採用戦略は毎年異なります。また、企業が採用に多様性を求めていることも訪問を通じてわかってきました。そこで職員

が年に2度各社を訪ね、生の情報を掴む。その上で、学生には私たちの言葉での確かなアドバイスをできる体制を構築しています(佐野氏)。そのほかにも現場を体感する見学会やインターンシップ等を学生が欲しているタイミングで次々と投入し、「働くこと」をよりリアルな体験やコミュニケーションとして落とし込んでいく。こうした結果、國學院大學では学生の就活における活動量を層高めることに成功しているのである。

就活は、楽しんだ者勝ち ロールモデルとなる内定者たち

これらのプロセスを経て、國學院

大學では多くの学生が、成長の機会として就活を活かし、希望する企業への内定を果たしている。また、キャリアサポート課では、各業界の優良企業から内定を得た4年生が「内定者アドバイザー」を務め、机上の「べき論」だけでは響かない学生目線のアドバイスやナレッジの共有を行う。「就活を楽しんで終えた」とも言える彼ら4年生は、次に就活を始める後輩が手本にするロールモデルとなるのだ。働くことは、楽しい。そんなシンプルなメッセージを体現する人々のリアルな姿や言葉を、学生に見せ、体感させていく。こうしてモチベーションが連鎖する流れが今、國學院大學で確かにできつつある。